

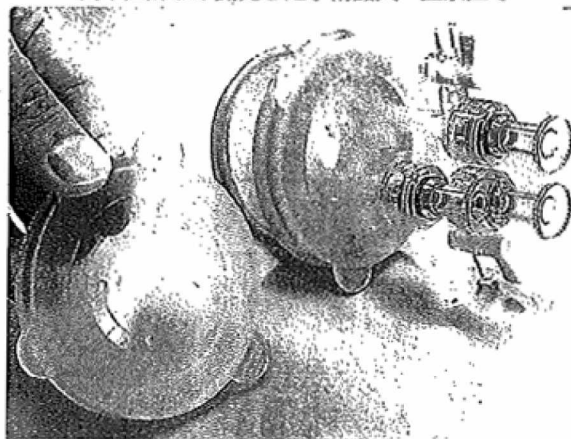
きょうの療

2010・10・8

療

腹腔鏡手術 安価な単孔式器具考案

高木医師らが開発した手術器具＝上京区で



西陣病院・高木医師ら

腹腔鏡手術は、おな た小さな穴から、内部
かの3〜5カ所に開け を観察するカメラや電

腹腔鏡手術の際、切開部分を1カ所で済
ませる安価な器具を、西陣病院（京都市上京
区）の高木剛医師（41）らが考案、今月に医
療器具として商品化される。既存の器具を応
用し、従来の半額以下に抑えた。高木医師は
「患者の負担が小さい手術が普及するきっか
けになってほしい」と話している。

【高野聡、写真・望月亮一】

「患者の負担小さく」

手術器具を開発した
高木医師



従来品応用

半額以下に

ほとんど目立たない
効果があるほか、手術
後の回復も早い。10年
前、野馬千曲市」と共同で
の隠れた部分を2カ所ほ
ど切り、そこから複数
の器具を入れて行う
「単孔式腹腔鏡手術」
が登場。手術後の傷は
ほとんど目立たなくな
った。
しかし単孔式手術で
現在使用している使い
捨て器具は5万円台後
半と高額。費用も病院
側の負担となるため、
多くの利点にもかかわらず、
導入する病院は
限られていた。
高木医師らが医療器
具メーカー「八光」（長
野県千曲市）と共同で
し、患者からも好評を
得ている。
高木医師は「手技の
難しさに加え、器具が
高価なため、取り組み
病院が少なかった。負
担額が減ることで、導
入する病院も増えてほ
しい」と期待している。